
隠された系図

アイリーン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

隠された系図

【Nコード】

N5356H

【作者名】

アイリーン

【あらすじ】

主人公はモナコ公国の王女。特別扱いを嫌い、身分を隠して別の高校に編入する。様々な国のプリンス&プリンセスが登場する話です。最後にはドラマが待っています。なお、この物語に登場する人物や国などの名前と実際の名前とは一切関係ありません。

第1話 登場人物紹介（前書き）

この分野は初挑戦なので、どうかよろしくお願いします。

第1話 登場人物紹介

◇登場人物紹介◆

？

主人公のアリー・ディストリア、年齢は15歳。モナコ公国のプリンス。黒くて長い髪と青い目が特徴。正義感が強くて友達思い。特別扱いを嫌い、身分を隠して別の高校に編入するが…？生徒会会長を務める。

？

ウォン・チャイ、15歳。中国王室の王子で、双子の妹がいる。兄と妹一緒に、モナコに留学してきた。主人公と同じ生徒会の会計をしている。

？

ロン・チャイ、15歳。中国王室の王女で、双子の兄がいる。兄と仲がよく、一緒にモナコまで留学してきた。面倒見がよく、飾らない性格。生徒会の書記を務める。

？

青龍悟^{せいりゅうご}、15歳。日本皇室の皇族。勉強のため、モナコに留学してきた。生徒会の副会長を務める。主人公と恋に落ちるが…？

？

マーナ・ディストリア、19歳。モナコ公国のプリンセスで、主人公の姉。妹と外見は金髪と程遠く、性格も内気で大人しいが決断力はある。小さい頃から体が弱かった。

？

リーシャ・リュクセン、15歳。父親はモナコ公国王室直属の医師で、母親は世界有数の財閥の令嬢。主人公らと同じ高校に通い、生徒会書記としても同級生としてもよい友達である。最初は身分を隠して編入してきた主人公に気付かなかったが…？

主な登場人物は以上です。そしてここにもう1度断りを入れておきますが、この物語に登場する人物や国などの名前と実際のものとは一切関係ありませんので、御了承ください。

さて、次回からいよいよ物語が始まります。

この分野は初挑戦でわからないことだらけなので、何か指摘があったら遠慮なくよろしく願います。

これからもマイペースですが更新していこうと思っているので、どうかこちらの作品もよろしくお願いいたします。

作者

アイリーン

第2話 プロローグ（前書き）

この物語は、主人公の目線からみた様子を描いています。

第2話 プロローグ

私は誰？

あなたは誰なの？

知ってる気がするけど思い出せない…

何が迫ってくるの？

だめ…

来ちゃだめ…

危ない…！！

ガバッ！！

（ふう…なんだ、夢だったのね…）

そんな夢をみていた私は、モナコ公国のプリンセス、アリー・ディストリア。日本と同じ女子高生。

あ、プリンセスっていつても、モナコっていう小さい国の、しかも第2王女なんだけどね…

みなさん、モナコっていう国名くらいは知ってるわよね？

フランスの南にあるすごい小さい国なんけど、教育も盛んで、国1つが丸ごとリゾート地みたいなものなんだ。

そこの第2王女として迎えられ、15歳まで無事に育ちました。

そして、私には姉さんがいます。

名前は、マーナ・ディストリア、年齢は私より4つ年上。小さい頃から体が弱かったらしくて…

そのためかな？私が正義感が強くて身分を隠したい、って思うようになったのは…

お姉さんを守ってあげなきゃ、私はしっかりしなきゃ…ってどこかで思ってたのかも…

そしてその性格から（？）、私は別の高校に編入することになりました。

もちろん、我が国モナコ公国のプリンセスである、ということは隠して…です。

だって、プリンセスっていつでも中身は普通の女の子だし、普通の女の子として友達と話したり遊んだり勉強したりしたかったから…

……

そして、その編入の日がとうとうやってきたのです。

どんな人達が待ってるんだろう…？

友達ができるかな…？

そう考えるとドキドキワクワクしてきたから、どうしてもそんな夢をみたのか不思議なくらい…

さあ、もう行かないと…

ドキドキワクワクな生活が待ってるといいな…

第3話 出発（前書き）

お久しぶりです。今回も長めの投稿です

第3話 出発



そして翌日の朝…

メイドA「アリー王女様、おはようございます。起きてください。ほら、今日もいい天気ですよ。」

そう言いながらメアリー（メイドA、以下メアリーとする）はカーテンを勢いよく開けた。

明るくやわらかい光が部屋いっぱいに降り注ぐ。

アリー「うん…おはよう…。」

私はその光でようやく目がさめた。そしてベッドの脇にあるドレッサーの前に座る。

メアリー「さあ、王女様。今日はどの髪型にしますか？」

アリー「もう、メアリーったら…王女様はやめて、って言ったでしょ？私、王女だからっていうだけでそう呼ばれるの、嫌いなもの。」

メイドのメアリーはクスッと笑った。

メアリー「はい、承知いたしました、アリー様。」

アリー「……………つともう……………あ、それと髪型はいつものようにしてちょうだい。」

メアリー「はい、かしこまりました。」

そう言い、メイドのメアリーは私の黒くて長い髪をセットしていく。

まずブラッシングをして髪を整える。

首の後ろの髪を頭の上で束ねる。

そして髪のはきは軽くカールするように…

そして30分後、いわゆるアゲハ嬢の髪型の完成です。

アリー「うん、これでいいわ。メアリー、ありがとう。ところで、お父様とお母様は？」

メアリー「大公様と公妃様は、今日のご予定を確認されて…あ、今ちょうどご出発されたようですね。」

外からは車が走り去る音と、それを見送る人々の声が聞こえる。

（はぁ…お母様とお父様はわたくしの転入の日だというのに…）

メアリー「それは大事なお嬢様ですから見送りたいのでしょうか、ご公務ですから仕方ありませんわ。なんてったってこのモナコ公国の大公ご夫妻ですもの。」

しばらく、私は車の出て行った先を少し寂しそうに見つめていました。

そしてどれだけの時間がたったのでしょうか？

キャリス（執事）「アリー様、お食事の準備ができましたが…。」

という執事の声で我に帰りました。

アリー「あっ、いっけなーい！！もうこんな時間！！急がないと…。」

キャリス「では、せめて果物だけでもお召し上がりください。お車で行けますか？」

私は急ぎながらも上品に食べながら答える。

アリー「いいえ、歩いて行きます。近いですから。」

キャリス「さようですか…それでは、お氣をつけて…。」

裏門を開けると、使用人たちがそろって、

「行ってらっしゃいませ、お嬢様。」

と見送ってくれた。

裏門から出たのは、パパラッチの警戒のため。

（だから、それはやめて、って言ってるのに…）

そう思いつつも、私は転入先であるモナコでも有数の高校にむかって胸躍らせながら向かった。

第4話 転校生紹介（前書き）

長い間ほったらかしですみません……

第4話 転校生紹介



そしてその頃学校では……

リーシャ「ごきげんよう、みなさん」

生徒A「あ、リーシャ様。おはようございます」

ここはモナコでも有数の進学校。世界各国のプリンス・プリンセスたちがこぞって留学してくる超有名校だ。

そしてこの学校にも、中国王室から双子の王子王女が留学してきていた。

兄の方はさっきから窓の外を見つめていた。とそこに、慌ただしく妹のロン王女が教室に飛び込んできた。

ロン「ちよつとみんな大ニュース!! 今日このクラスに転校生が来るんだって!!」

生徒B「えーホント!? どんな人なの?」

生徒C「かっこいい男の子? それともかわいい女の子?」

ロン「うーん、そこまではわかんないけど……ってそんな話、お兄様ならすぐに食いついてくると思ったんだけど……何を観てるの

「？」

そう言いながら、ロンは窓際から外を眺めていた兄の元へ向かった。そしてその2人の様子を遠くから見ながら同級生たちは話す。

生徒A「やっぱりウォン様とロン様は気高くて美しいわねえ」

生徒C「そりゃあなんてったって中国王室の王子と王女様だもの。私ら一般市民とは育ちも環境も違うのよ」

生徒B「でもあの2人そんな大変な身分なのに、ちっとも偉そうにしないし誰分け隔てなく優しいところがいいよね〜」

リーシャ「あ、それよりみなさん。先生が来たみたいよ」

そのリーシャの一声で、クラスの生徒全員がそれぞれの席に座り、担任の先生が教室に入ってくる。

そして教壇の前に立ち、こう言った。

先生「えーみなさんおはようございます。さてもう知っているかもしれませんが、今日は転校生を紹介します。入って！！」

その言葉に教室は静まり返り、その視線は教室のドアに向けられた。そして扉が開き、私、主人公が教壇の横までゆっくりと歩いてきた。

先生「さて、みなさん。この子が今日みなさんの仲間入りをするユ

ーリさんです」

そう、私は本当は我が国モナコ公国のプリンセスだけど、特別扱いが嫌いなため、身分と名前を偽って転校してきたのだ。

（以下主人公をユーリとする）

ユーリ「みなさん、はじめまして。わたくし、ユーリ・スワンシパ
ルと申します。どうかよろしくお願いいたしますわ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5356h/>

隠された系図

2010年10月13日11時28分発行